

<連載>のびのび田舎のクラブ紹介

「市の自立クラブ第1号になろう！」を合言葉に

しもやまスポーツクラブ（愛知県）

1. 人口密度の低い人口 5,500 人の地域

下山地区は、豊田市の東端に位置する地域です。かつては東加茂郡下山村と呼ばれました。平成 17 年 4 月に、豊田市に吸収合併され、今日に至ります。面積では今日の豊田市の 6 分の 1 近い広さを持ちながら、合併当時の人口は約 5,500 人、1 中学校 3 小学校からなる、いわゆる僻地であります。

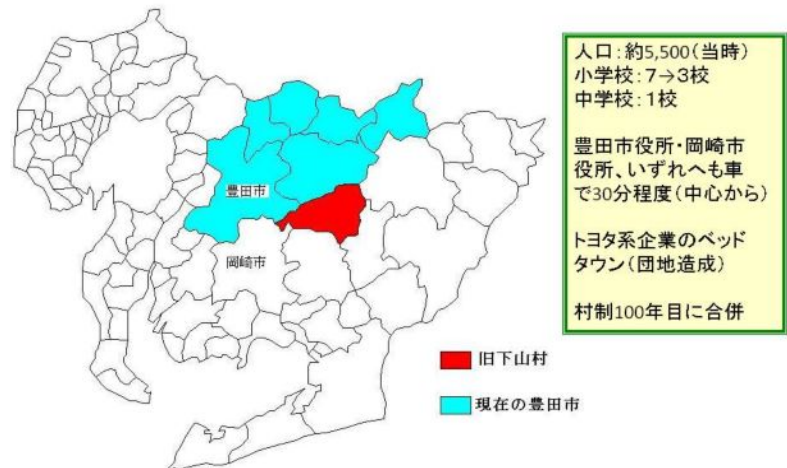
2. 消滅する村体協の機能を継承した 300 名のクラブ

しもやまスポーツクラブは、当時の体育協会、体育指導委員のメンバーに、少年団の指導者や、サッカークラブ、少年野球クラブなどの指導者を巻き込んで、消滅する下山村体育協会の機能を継承するかたちで、クラブの構想が検討されました。

さらには、新たなスポーツ機会の拡大といった視点も加えられ、合併から 1 年後の平成 18 年 4 月、当初会員 180 余名を迎えてクラブが設立されました。

以後、年平均 50 名ほどの会員増加をつづけ、4 年目の今年、約 300 名の会員を擁するクラブに育ちました。事業規模は年間 400 万円程度であり、自己資金率は 75% 程度となっています。

岡崎市・豊田市に隣接する山村



3. 資金面の苦労はあるが、施設は確保しやすい

人口数や密度が低い僻地におけるクラブ運営において、最も苦労するのは活動資金の確保の問題です。

当クラブでもすでに地区人口の 6% 程度の会員を抱えてはいるのですが、補助金なしでは現時点での自主運営は不可能です。

たとえば、市街地で同様のプログラムを実施すれば 30 名くらいの受講者が確保できるような教室でも、こちらでは 10 名が精一杯です。しかも、スポーツの需要が高い青年層が少ないこともあり、事業の企画には大変苦労しています。

一方で、僻地にもメリットがあります。学校開放をはじめ、公共施設の使用状況に、かなりの空きがあることです。クラブの事業を企画しても施設が確保できない、などと言うことは滅多にありません。

4. 地区外から収益を得る「しもやまカップ」

しもやまスポーツクラブは、このようなメリット・デメリットを考慮した事業展開を心がけています。

簡単にいえば、地区内からの収入だけでは自主運営不可能と割り切り、地区外の参加者から参加料収入が入るようなイベント事業を定期的に打つことです。

たとえば、地元だけでは3チームのリーグ戦であった、成人の軟式野球を、「しもやまカップ」と称して、広くエントリーを募り、外部から6チームの参加を得ました。もちろん、ビジター料金の参加料を頂いていますので、かなりの収益になっています。



市街地でなかなかグラウンドを確保できないチームの皆さんが喜んで参加して下さいます。そして、地元のチームにとっても、目新しい相手と対戦できて好評を得ています。

このほかにも、ビジター参加を見越したフットサル大会やソフトボール大会など、施設が自由に確保できるメリットを生かして、多くのイベントを手がけています。

ソフトボール大会

5. 大型イベント事業で僻地の限界を破る

また、しもやま地区には、ダム湖百選に選ばれた人造湖「三河湖」があります。村制の時代からここで行われてきたマラソン大会を、現在は市の協力を得て、しもやまスポーツクラブが運営しています。県下全域に参加を募るこのイベントも、クラブの収益を助ける大きな事業として位置づけ、徐々に参加者を増やしてきました。



人口が少ない僻地であっても、人々に都市部と同じ条件でスポーツ環境を提供したいものです。

一方で、地元からあがる事業収入に限界があるため、実現が困難に思えるのが現実です。外貨を獲得できる大型イベント事業によって、僻地のクラブの自立の限界を破っていきたいと思っています。

わずか10名足らずのスタッフですが、5年後10年後の到達目標を数値で設定し、「豊田市での自立クラブ第1号となろう」を合い言葉に頑張っています。

マラソン大会

(築瀬 歩 愛知県クラブ育成アドバイザー)

【しもやまスポーツクラブ連絡先】

〒444-3242

愛知県豊田市大沼町越田和 37-1 下山憩の家内

TEL・FAX : 0565-91-1811

Email: shimoscl@mis.ne.jp URL : <http://www.mis.ne.jp/~shimoscl/index.htm>

関連リンク : 築瀬歩氏プロフィール紹介

<http://www.japan-sports.or.jp/local/outline/adviser/22.html>